

# 第144回 市町村職員を対象とするセミナー

シルバー人材センターにおける取組・補助金等

厚生労働省職業安定局高齢者雇用対策課  
喜多見 靖

# シルバー人材センター事業（概要）

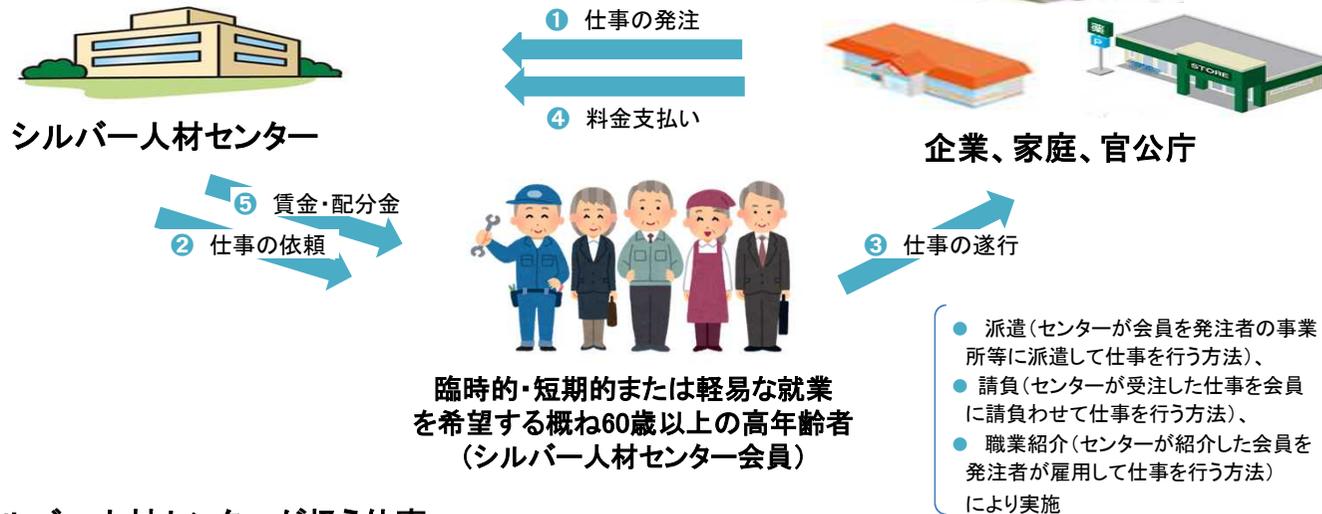
臨時的・短期的または軽易な就業(\*)を希望する高齢者に、シルバー人材センターが就業機会を提供

## ○ シルバー人材センターの概要(30年度)

団体数1,299団体、会員数71万人(男性47万人・女性24万人)、平均年齢73.0歳

就業実人員数59万人、月平均就業日数9.8日、月平均収入3.8万円、就業延人員数<就業人数×就業日数>6,977万人日

契約件数343万件、契約金額3,185億円



## ○ シルバー人材センターが扱う仕事

介護施設・育児施設・スーパーマーケット・ホテル・レストラン・製造業企業等への派遣、福祉・家事援助サービス、空き屋管理、地域見守りサービス、観光案内、清掃、除草、自転車置き場管理、公園管理、宛名書き、植木剪定、障子・ふすま張り など

地域の経済・社会の維持・発展 など

企業等の人手不足の解消、現役世代の下支え

高齢者の生きがいの充実、健康の維持増進、生活の安定

\* おおむね月10日程度以内、または、1週間当たりの就業時間が20時間を超えない就業

(高齢者の就業機会の確保に寄与することが見込まれ、民業圧迫や他の労働者の就業機会に著しい影響を与えるおそれがない場合であって、都道府県知事が指定した場合に、派遣、職業紹介の就業時間の上限を週40時間とする特例措置あり。平成28年4月より施行)

## 主要指標の推移

		平成25年	26	27	28	29	30
拠点数		1,268	1,272	1,282	1,291	1,293	1,299
会員数（千人）		729	722	721	718	714	714
	前年度比率（%）	▲ 2.0	▲ 1.0	▲ 0.1	▲ 0.4	▲ 0.6	▲ 0.0
	女性会員比率	32.5%	32.8%	32.9%	33.0%	33.2%	33.4%
就業延人員（十万人日）		689	691	698	705	704	698
契約金額（億円）		2,979	3,050	3,085	3,137	3,166	3,185
受注件数（万件）		360	360	356	354	351	343

## シルバー人材センター事業の沿革

### <シルバー人材センターの立ち上げから法制化>

昭和50年 東京都が高齢者事業団を創設

昭和55年 シルバー人材センターへの国庫補助開始

昭和61年 シルバー人材センターの社会的役割を明確化し、活動の一層の活性化・定着化を目指して法制化  
(高年齢者等の雇用の安定等に関する法律)

### <シルバー人材センターの全国展開>

平成 8年 高齢者が全国どこでも就業機会の提供を受けられるよう、シルバー人材センターの活動が各都道府県内で広域的に展開できるよう措置(シルバー人材センター連合制度創設)

### <シルバー人材センターの職域拡大、就業機会の一層の確保>

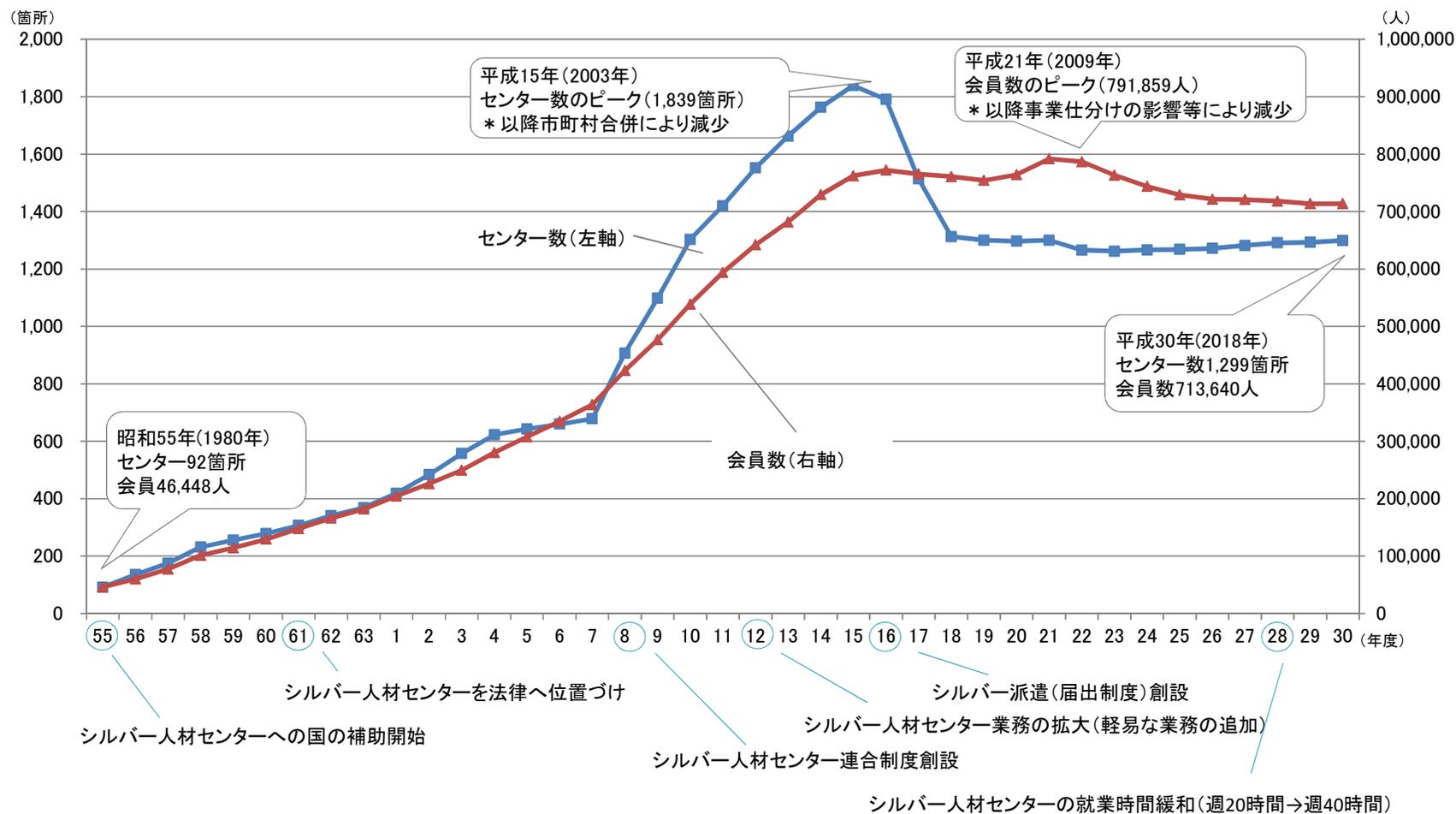
平成12年 シルバー人材センターの業務を拡大(概ね月10日以内の臨時的・短期的な業務に、概ね週20時間までの軽易な業務を追加)

平成16年 シルバー人材センターが労働者派遣事業を積極的に行えるよう措置(労働者派遣事業の特例を創設)

平成28年 シルバー人材センターの就業時間の要件を緩和できるよう措置(概ね週20時間⇒週40時間)

## シルバー人材センター（センター数、会員数の推移）

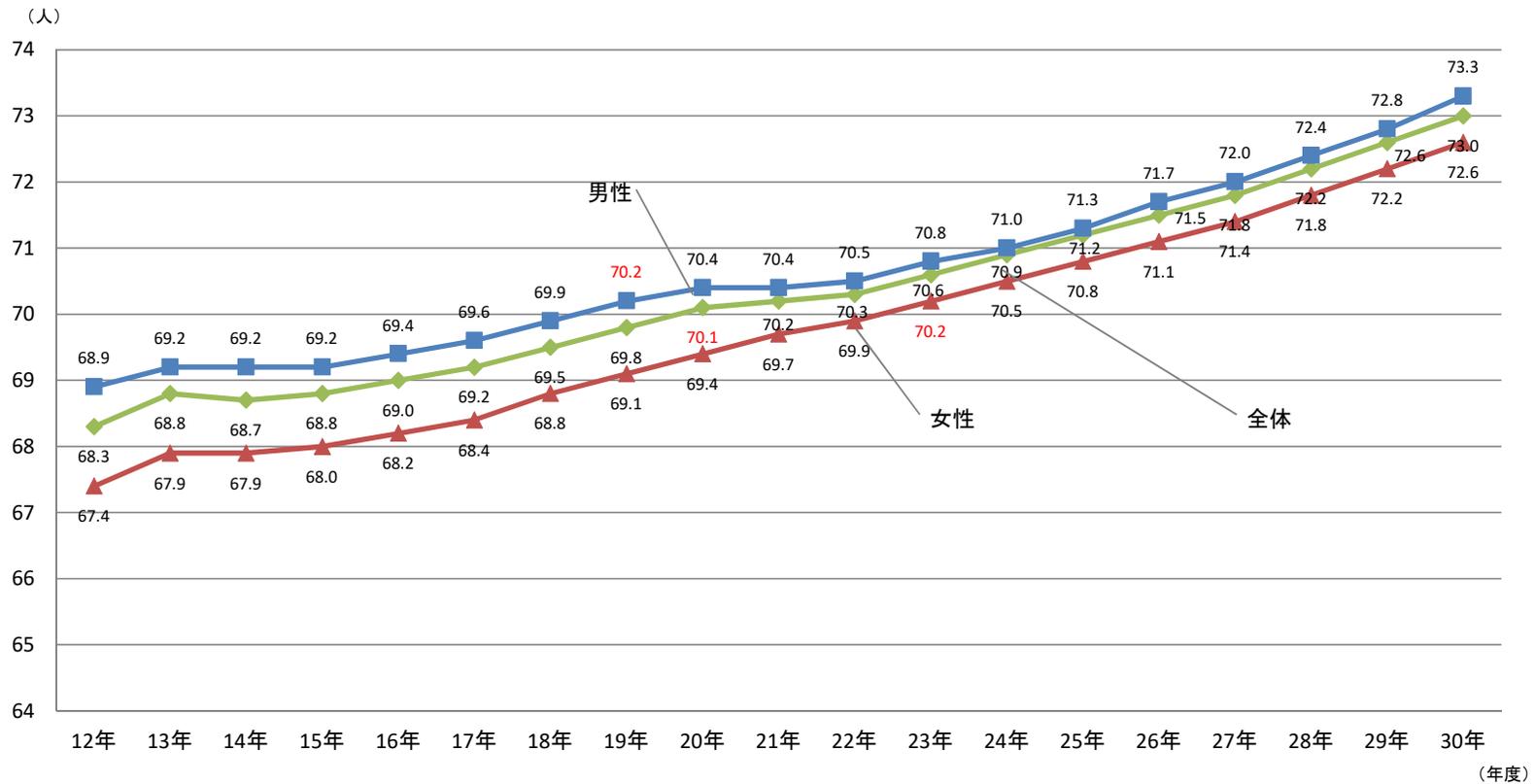
- センターの数は、平成15年度まで増加。平成18年度以降横ばいで推移。
- 会員数は、平成21年度をピークに減少。



資料出所: 全国シルバー人材センター事業協会調べ

## シルバー人材センター（会員平均年齢の推移）

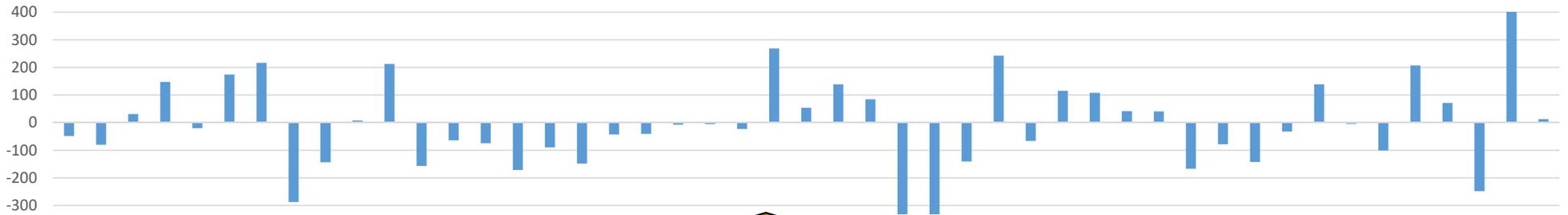
- 会員の平均年齢は上昇。
- 男性は平成19年度、女性は平成23年度、全体は平成20年度より70歳を超える。



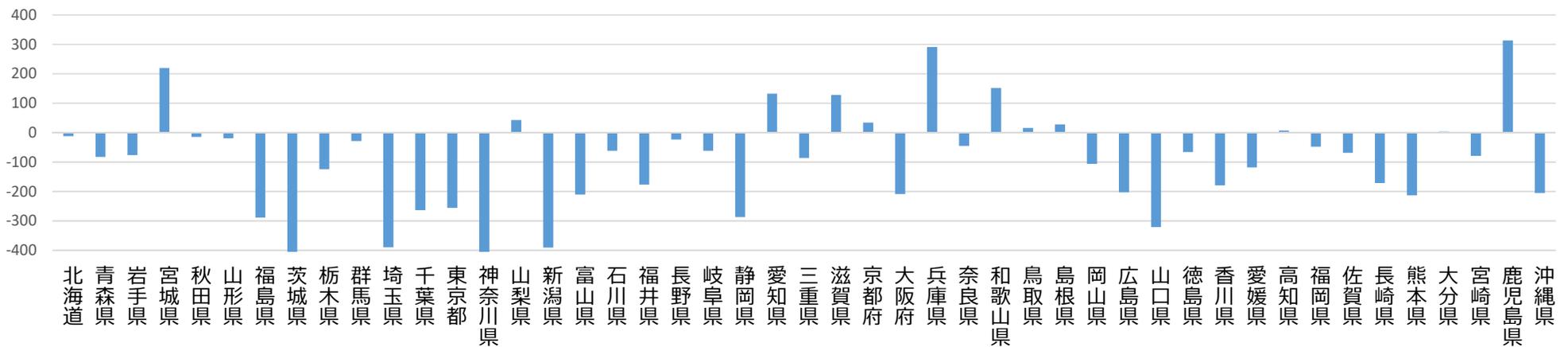
資料出所: 全国シルバー人材センター事業協会調べ

# 都道府県別会員の増減

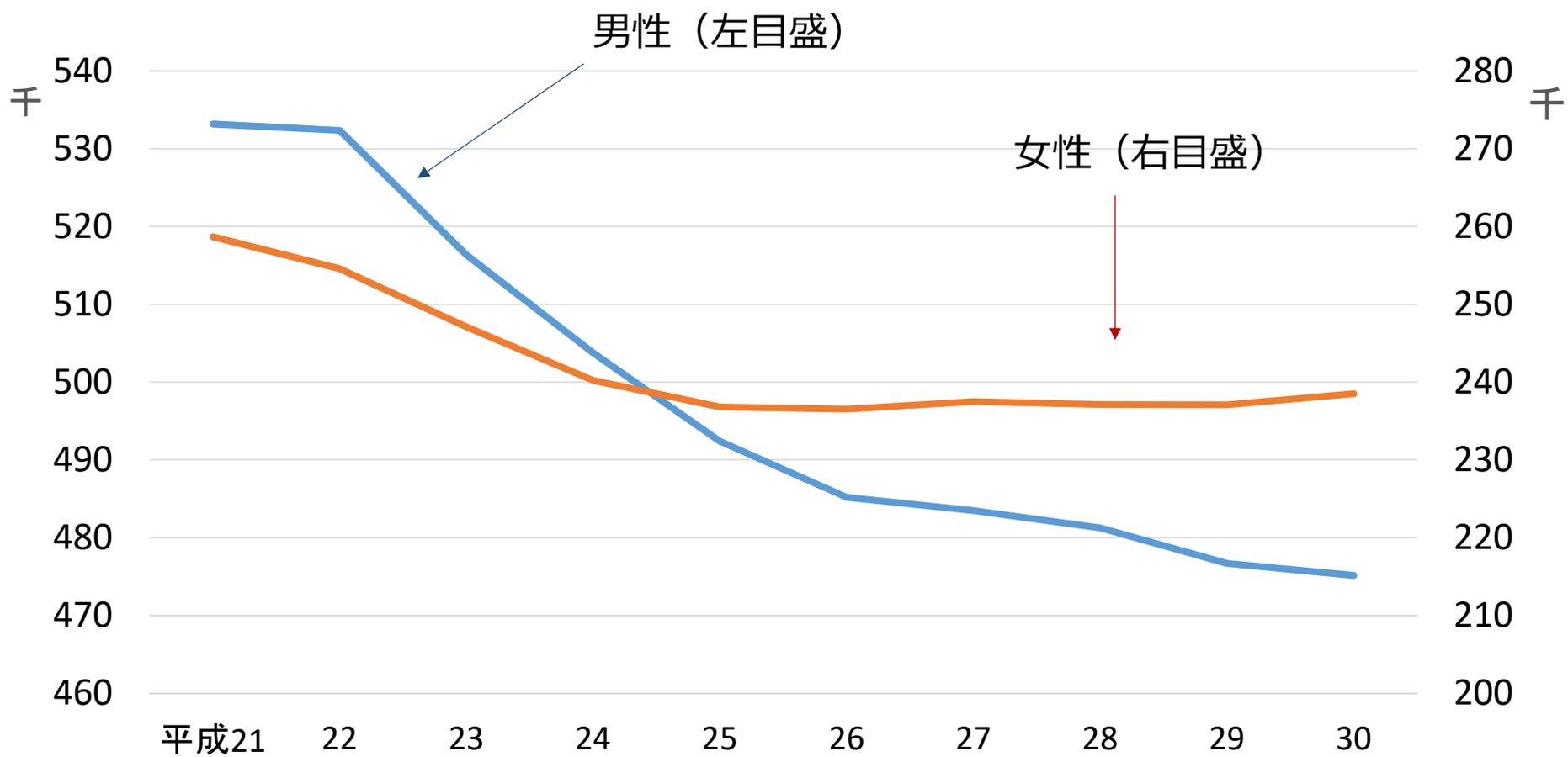
平成30年度



平成29年度



# 女性会員が増加



## 女性会員の増加に向けた取組事例

### ○ センター概要(平成29年度)

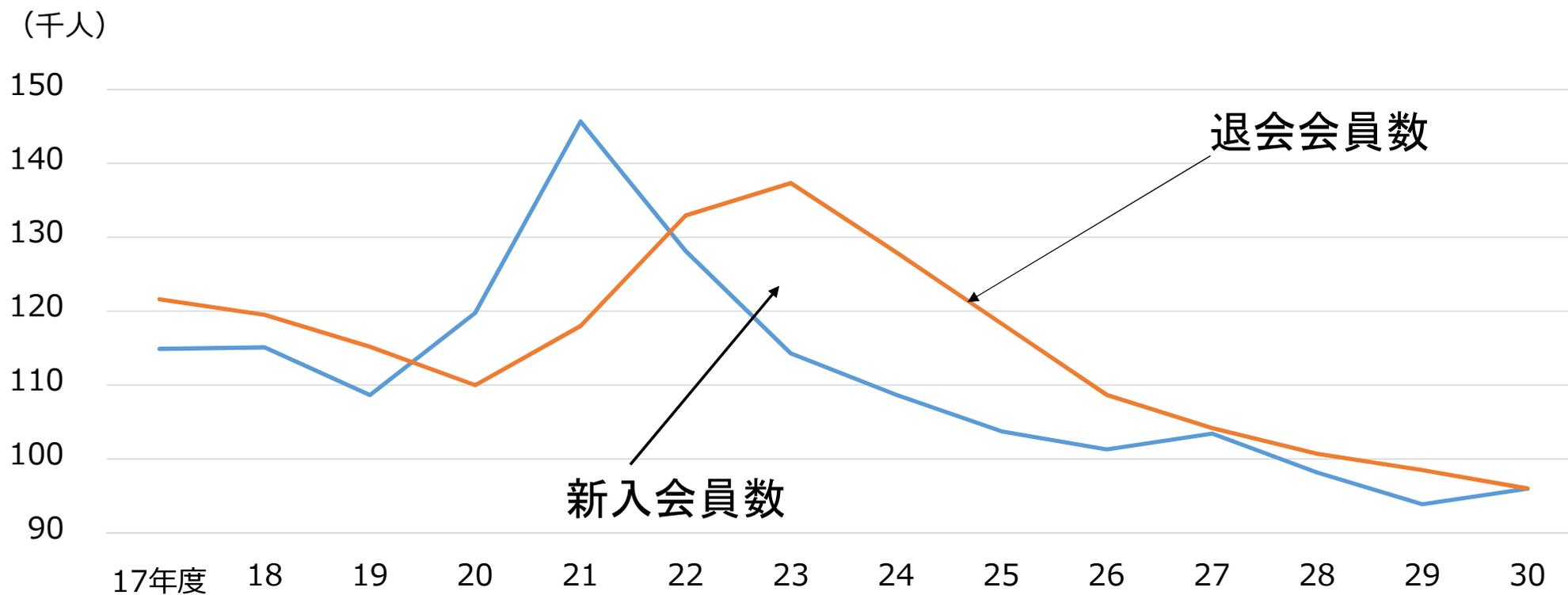
センター	鹿児島市シルバー人材センター(鹿児島県)	市区町村人口	596,319人
会員数(男、女)	3,241人(男:2,054人、女:1,187人)	60歳以上人口	198,411人
就業延人員(請負・委任)	201,755人日	60歳以上人口/市区町村人口	33.3%
就業延人員(派遣)	83,285人日	粗入会率 (会員数/60歳以上人口)	1.6%

### ○ 取組事例

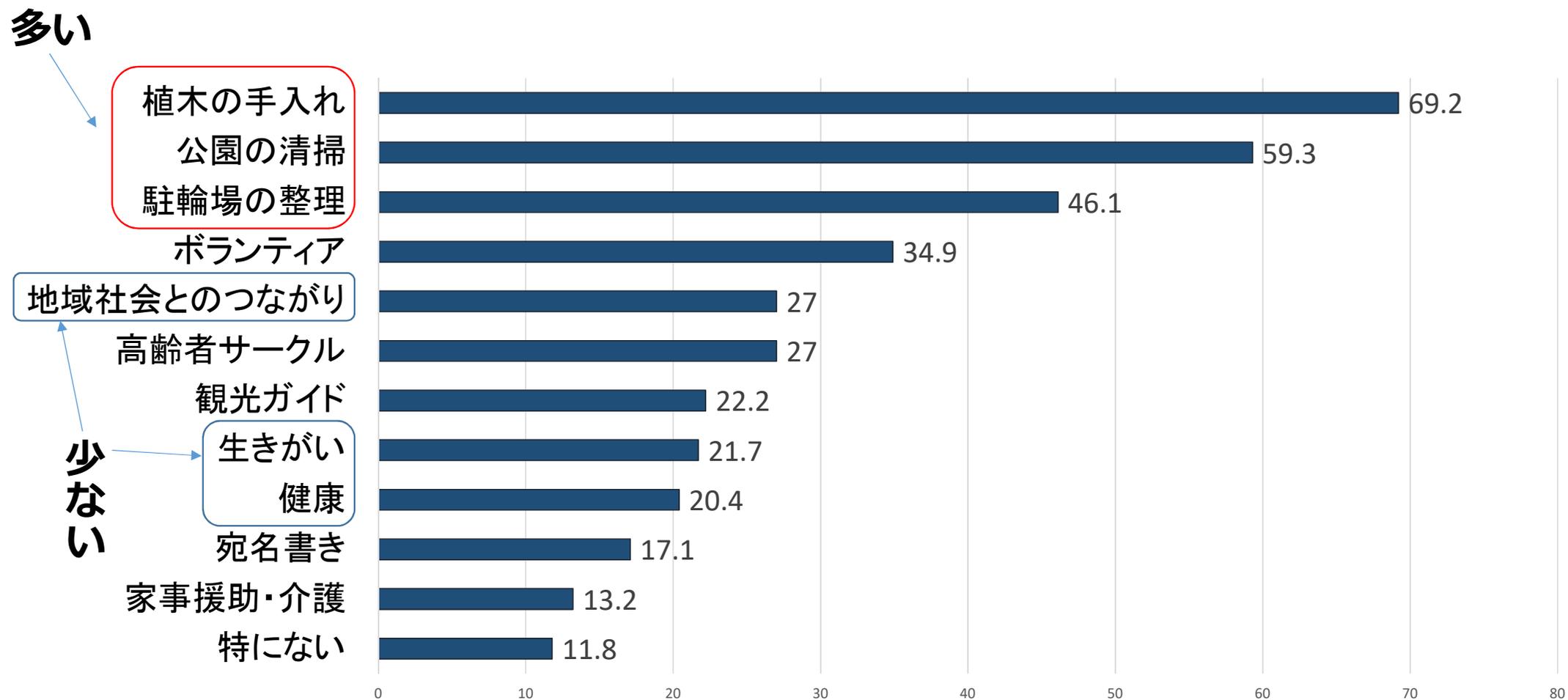
取組の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●パンフレットやチラシを60代前半層の女性をイメージしたデザイン、女性・市民目線の内容に改め、捨てられないよう工夫した。また、新聞折込日をスーパー等の大型店舗のチラシが入る曜日に設定し、女性の目に触れる確立を高めた。</li> <li>●シニア女性の夢を叶えるイベントとしてシニアビューティーフェアを開催し、会員がモデルのファッションショーやビューティー講座を行った。200人以上が参加し、マスコミ報道によるセンターのイメージアップ効果に加え、運営スタッフの女性会員・職員との絆も深まり、多くの女性会員の入会に結び付いた。</li> <li>●女性会員の会「ひまわりの会」の女性会員による勧誘活動で、女性の友人及び配偶者等の入会へ繋がった。</li> </ul>	 <p>ひまわりの会</p>  <p>シニアビューティーフェア</p>
-------	--	--

会員数		平成28年度	平成29年度	平成30年度(2月末)
	全体	3,050人	3,241人	3,687人
	うち女性	1,050人	1,187人	1,446人

# 新入会員が増加傾向に



# シルバー人材センターのイメージ（アンケート調査）



資料出所：N R I 社会情報システム株式会社「シルバー世代の人材活用に関するアンケート」（平成26年）

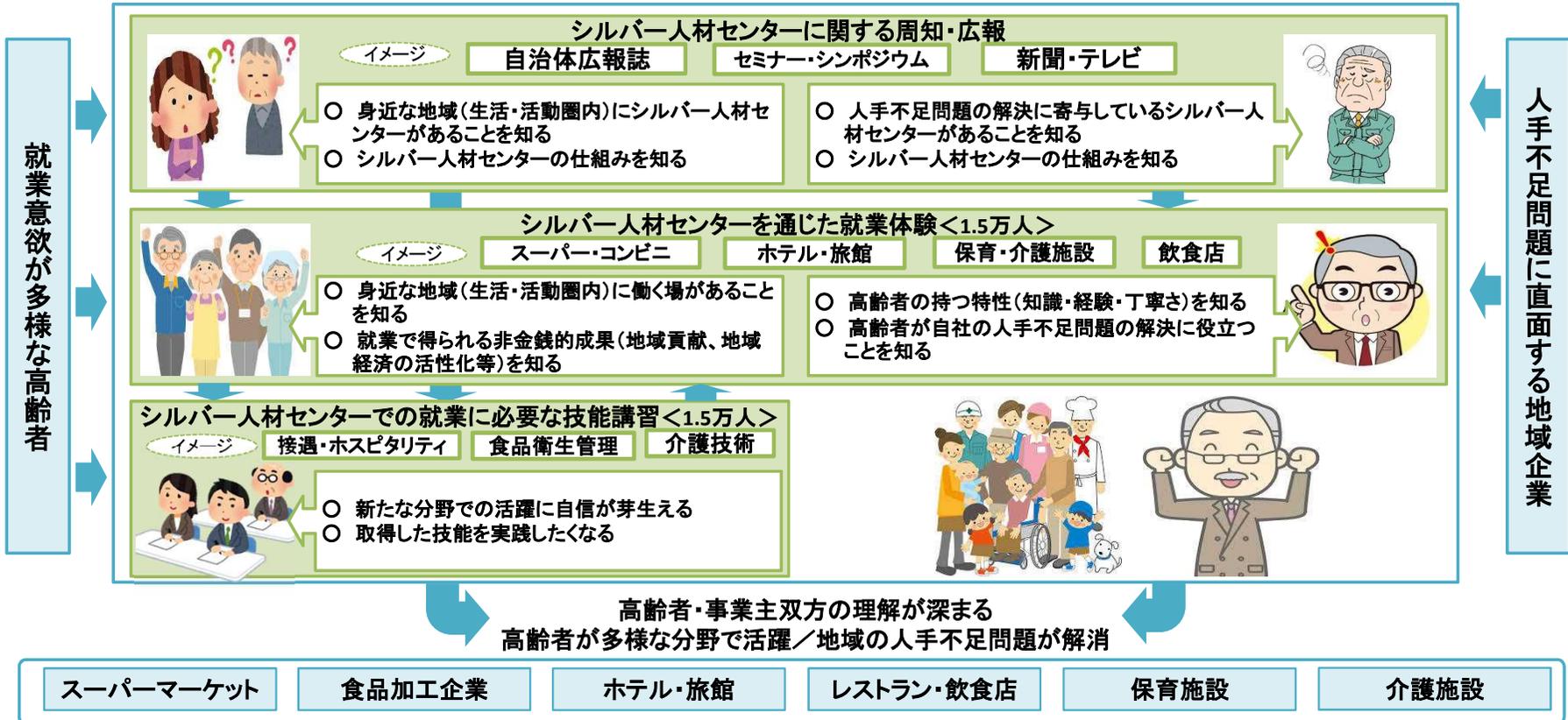
※55歳以上の者に質問

(%)

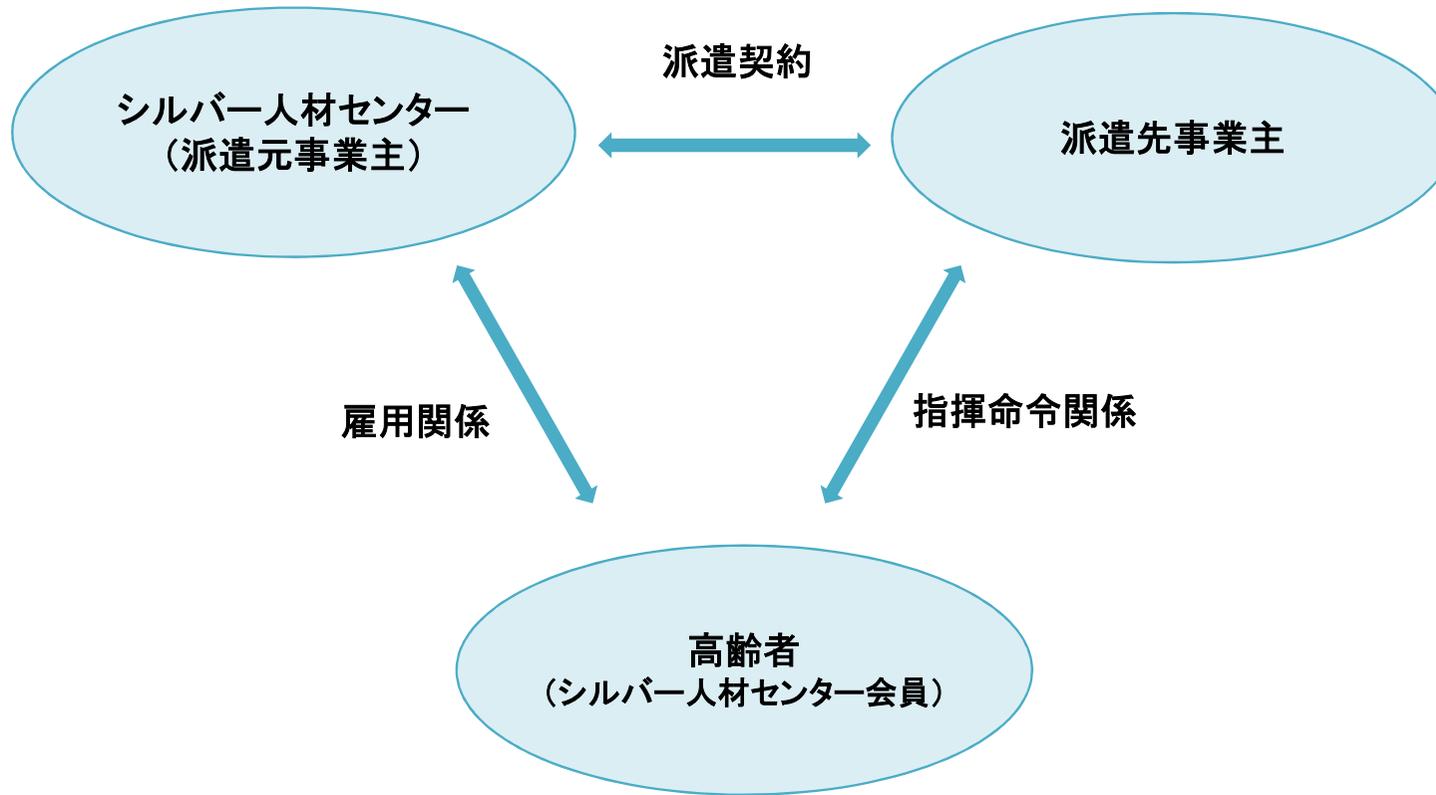
# 高齢者活躍人材確保育成事業

令和元年度予算額 2,484,383(1,382,896)千円

- 労働力人口の減少等により、サービス業等での人手不足や、育児・介護等の現役世代を支える分野での担い手の不足が問題となる中、当該分野での高齢者の就業を推進することは喫緊の課題。
- しかしながら、高齢者の中には、働くことに意欲的な者がいる一方で、経済的理由から働く必要がない、引退して好きなことを楽しみたい等といった理由から、必ずしも働くことに意欲的でない者も多くみられる。また、地域の事業主の中には、未だ高齢者の活用に積極的でない、又は興味はあるがどのように活用していいかわからない者も散見される。
- こうした高齢者や事業主に対して、自己の都合や働く意欲の変化に応じて臨機に就業機会を提供することにより人手不足問題の解決に寄与するシルバー人材センターを周知するとともに、実際の就業体験を通じて、高齢者、事業主双方の理解を深めることにより、シルバー人材センターにおける高齢者の一層の活躍を促進する。



## シルバー人材センターが行う労働者派遣の仕組み

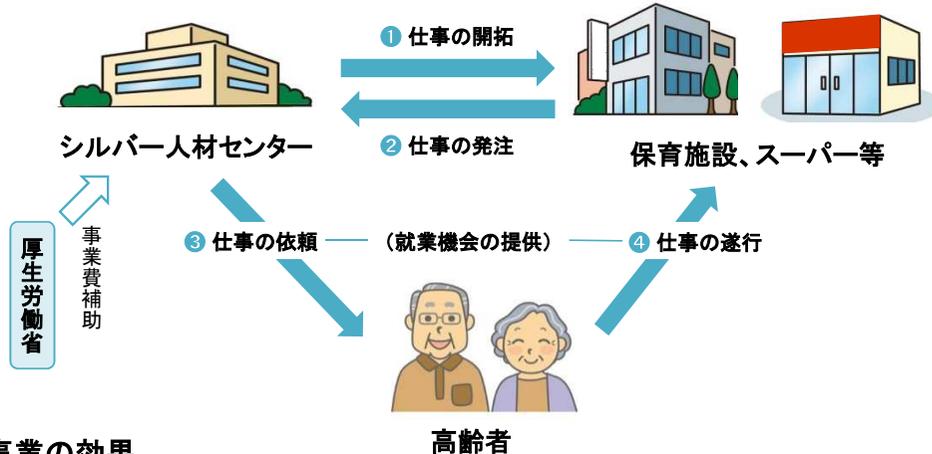


# 高齢者活用・現役世代雇用サポート事業

令和元年度予算額 7,388,716(6,187,586)千円 労働保険特別会計雇用勘定

- 少子高齢化が急速に進展する中で、全国的に人手不足問題が課題となっており、高齢者を活用することが極めて重要であることから、本事業において、サービス業等の人手不足分野や介護、育児等の現役世代を支える分野での高齢者の就業を促進し、企業活動や経済・社会の活性化を図っている。
- こうした分野は、ホワイトカラーとして活躍していた高齢者にも馴染むものであり、退職後、就業に踏み出せない高齢者にとっても活躍が期待される分野となっている。
- このような状況の中で、シルバー人材センターにおける就業延人員は、前年度比約130%と大幅に増加しているが、約7割のシルバー人材センターにおいて会員不足等により注文に応じられない状況となっている。
- また、シルバー人材センターにおける高齢者の一層の活用を図る観点から、都道府県知事により就業時間が緩和(週20時間→週40時間)される地域が拡大しており、平成30年度には100地域以上拡大し、今後更に拡大することが見込まれている。
- このため、平成31年度においては、事務局体制の拡充を図ることによりマッチング機能を強化するとともに、平成30年度に引き続き、就業時間が緩和された地域における高齢者の就業促進を図っていく。

## ○ 事業のイメージ



## ○ シルバー人材センターが開拓する仕事の例

(人手不足分野)

- ・ スーパーマーケットでの早朝の品出し、惣菜調理、清掃、開店準備等
- ・ 食品製造工場での加工作業等

(現役世代を支える分野)

- ・ 保育施設での朝晩の園児の受け入れ、補助者への引き渡し、保育補助等
- ・ デイサービス施設での利用者の送迎(ワゴンの運転)、食事の用意・補助、清掃等

## ○ 31年度増額理由

- ① 各拠点の体制強化(マッチング支援員の勤務日数の増加)の経費として、9.7億円増
- ② 要件緩和地域におけるマッチング支援員増員等に係る経費として、2.3億円増

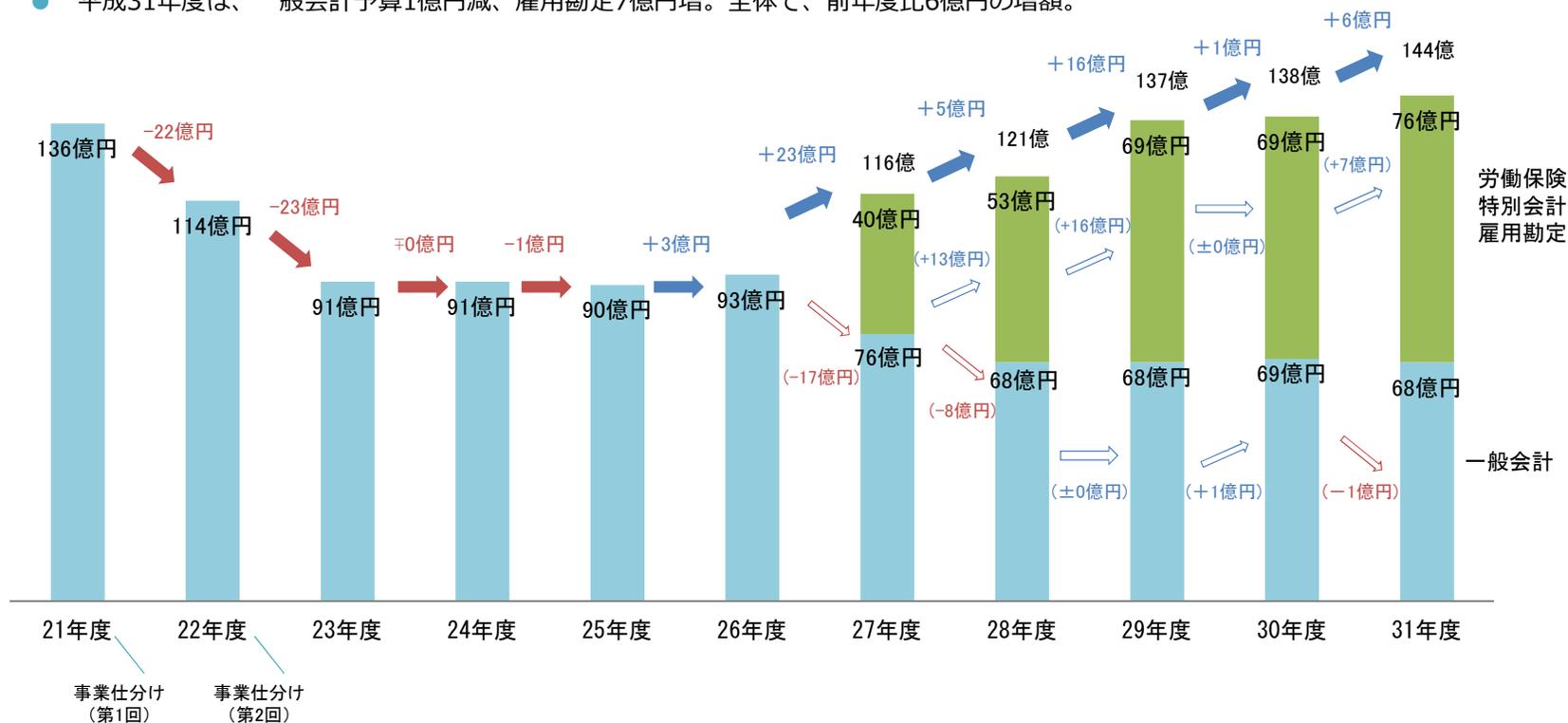
## ○ 事業の効果



# シルバー人材センターについて（補助金の推移）

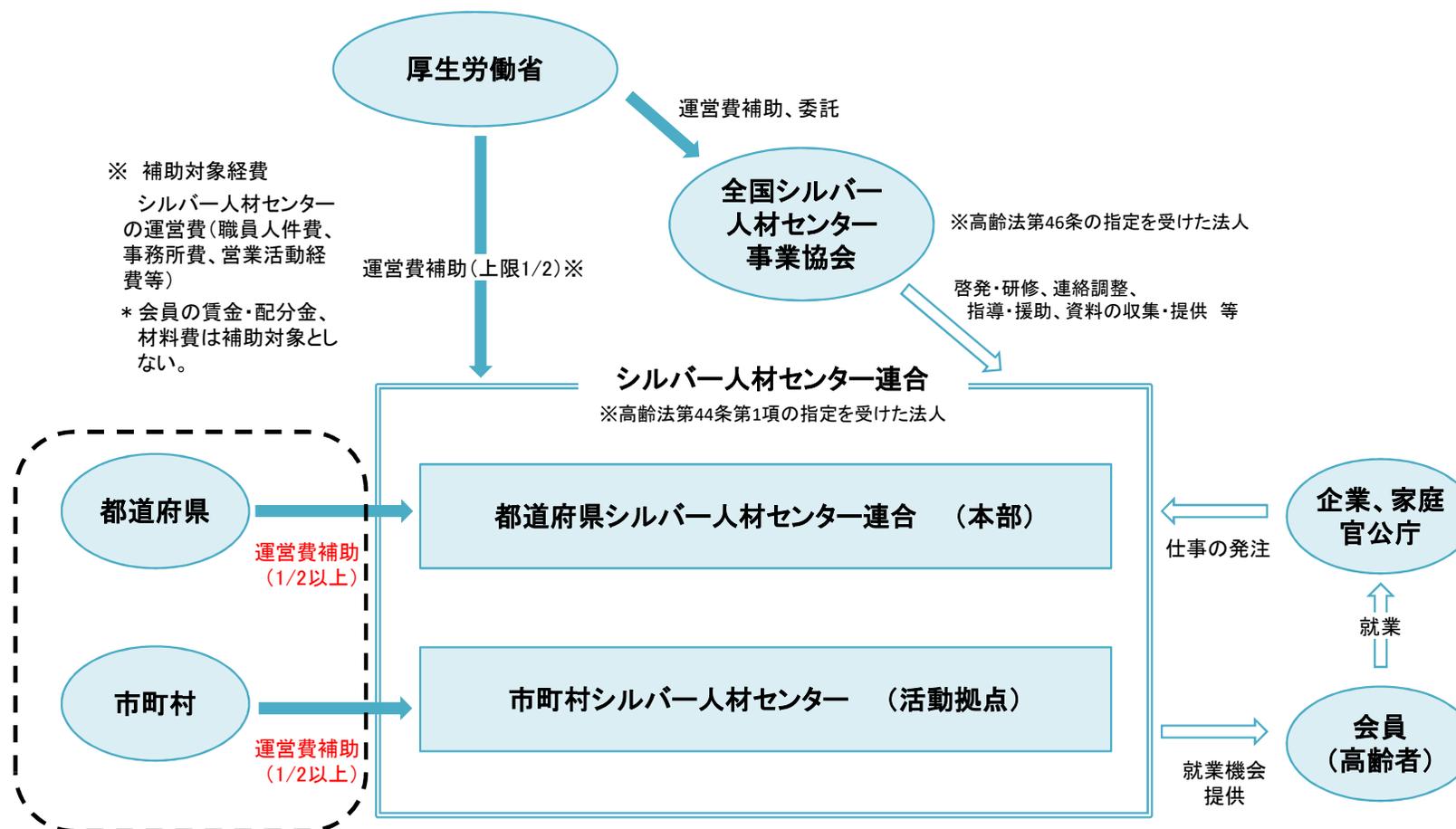
※予算ベース

- 平成27年度から、労働保険特別会計による補助を開始。
- 平成31年度は、一般会計予算1億円減、雇用勘定7億円増。全体で、前年度比6億円の増額。



# シルバー人材センターについて（組織・補助の仕組み）

- シルバー人材センターは、高齢者雇用安定法に基づき都道府県知事が指定。
- 都道府県に設置されるシルバー人材センター連合の一部（活動拠点）として、市町村に設置される市町村シルバー人材センターを位置づけ、都道府県ごとに指定。



ご静聴

ありがとうございました